

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第13期 第1年 第1回 第2日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2020(令和2)年7月5日(日) 午後2時00分～4時30分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 21人

カイ イーモンタン、グエン テイトウチャン、児玉 ノンティシャー、シン
バスカ バハドール、スチエタ スリニヴァサン、池 垠伊、張 亮、チョ
チョ カイン、ドウマヤス アリヤン、バテネフ アルチョム、ペレーラ
ラヒル サンケータ、ポール ウツザル クマル、ボソ ミゲル アンヘル、
前田 喜与美、ムハマド アイマン アリフ、ユデク マルチン、尹 智夏、李
歓歓、レイバーマン ケビン、和田 恵麗奈、ンディアエ マリ カテリン

(2) 事務局

小川 課長、ながぬま たんとう 課長、さとう 課長 補佐、くさかべ 職員、たかはし 専門
調査員

4 傍聴者 2人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2020年度第1回第2日を開催する。今日は、許さん、ステイブンスさん、金さんから欠席の連絡があった。アディティアさん、劉さんもまだ来ていないので欠席かもしれない。まずは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし) それでは、議事に入る。まずは、実行委員会についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

レイバーマン委員「実行委員会の適性やどうやって選んだらよいかの判断材料はあるか。もう少し具体的に何をやるのかを知りたい。英語力を生かすならニュースレターがよいかと考えている。」

事務局高橋専門調査員「まず、ニュースレターは多言語で発行しているが、翻訳は代表者ではなく国際交流協会に依頼している。また、編集委員になっても全員が記事を書くわけではない。記事を書く場合も、日本語で書いてもらうのでみなさんの語学力を生かすということはあまりない。臨時会については、今年度は新型コロナウイルスの影響で開催できるかがわからない状況にある。これまでと同じようにはできないかもしれないが、代わりに何ができるかなどアイデアを出して考えて欲しい。」

児玉委員「もし臨時会ができない場合のプランはあるのか。」

事務局高橋専門調査員「事務局として明確なプランがあるわけではない。できること、できないことはあるが、事務局が勝手に決めるのではなく、まずは代表者のみなさんで話し合ってもらうことが必要だと考えている。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし) それでは、順番に決めていきたい。まず、実行委員会をつくることに対して意見はあるか。(なし) では、実行委員会をつくることに賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成) 次に、どの実行委員会をつくるか決めたい。今年度はイベントの開催が難し

そんなこともあり、案では臨時会実行委員会とニューズレター編集委員会の2つとなっているが、何か意見はあるか。」

スチエタ委員「まだ思いついたただけなのだが、オンラインでイベントをしたらどうか。

その場合、オンライン実行委員会が必要ではないか。」

事務局高橋専門調査員「決めるのはみなさんだが、少し話を整理して、提案させて欲しい。まず、事務局としては、今年度はイベントの開催は難しそうなので、実行委員会をつくらずに、もしイベントに参加する場合は全体会で話し合うのがよいと考えていた。だから、案では臨時会実行委員会とニューズレター編集委員会の2つになっている。それに対して、オンラインのイベントを検討したらどうか、そのために実行委員会が必要ではないかという意見が出た。これをどうするか決めるのはみなさんだが、イベントの方法についていろいろと検討するというのなら、オンラインはその1つの方法なので、オンライン実行委員会とはしないで、今までどおり市民祭り実行委員会とするのがよいと思う。臨時会実行委員会とニューズレター編集委員会の2つにするか、臨時会実行委員会、ニューズレター編集委員会と市民祭り実行委員会の3つにするか、で決めていただければと思う。」

ペレーラ委員長「では、臨時会実行委員会とニューズレター編集委員会の2つに賛成の人は手を挙げてください。（18人）市民祭り実行委員会をくわえた3つの実行委員会に賛成の人は手を挙げてください。（3人）では、実行委員会は2つとする。それでは、どちらの実行委員会に入るか決めたい。（順番に希望を確認 → 人数調整）欠席者には事務局から確認をお願いする。では、次の議事に移る。市の審議会等委員について、事務局から説明をお願いする。」

（事務局日下部職員が資料4に基づき説明）

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

チョ委員「川崎市青少年問題協議会はどういう内容の話をするのか。」

事務局日下部職員「青少年の指導、育成、保護などに関することなのだが、具体的な内容についてはその時々で違ってくるので、活動が始まってみないとわからない。」

グエン委員「時間や会場が決まっているものもあるようだが、今、コロナのこともあるのでオンラインでの参加もできるか。」

事務局日下部職員「各担当課に確認したが、今のところオンラインでの開催を予定し

ているものはなかったが、今後、変更になる可能性はある。ただし、オンライン以外にも書面会議といった方法もある。」

レイバーマン委員「それぞれの委員の役割は、会議に出席すればよいのか。それとも、会議の中で何か重要な役割を担ったり、活動したりすることがあるのか。」

事務局日下部職員「特別な役割を担うことはないと思うが、外国人市民の立場からの意見を期待されていると思う。」

ペレーラ委員長「12期の代表者で経験をした人に話を聞いてみたい。」

児玉委員「一昨年、かわさき市民祭り実行委員会の委員をやった。全部で50人くらいいて、外国人は私1人、福田市長もいた。この会議と同じように資料の説明を受けて、案について意見があれば意見を言って、決めていく感じだ。緊張はしたが、難しくはなかった。」

事務局高橋専門調査員「1つ補足がある。資料にそれぞれの会議の回数が書いてあるが、川崎市青少年問題協議会に関しては過去に部会をつくって活動していたことがあった。部会をつくって、部会の委員にもなると、活動回数が増えるかもしれない。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)では、順番に希望を聞いていく。

- 川崎市成人式企画実施委員会：チョ委員
- かわさき市民祭り実行委員会：児玉委員
- 川崎市青少年問題協議会：ステータ委員(辞退)

尹委員

- 川崎市国際交流センター活用推進検討委員会：バテネフ委員(11人)
- レイバーマン委員(7人)

次の議事に移る。イベントへの参加について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料5に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)では、もし市民祭りが開催される場合、代表者会議として参加するということに賛成の人は手を挙げてください。

(20人)それでは、開催される場合には参加の申し込みを事務局の方でお願いする。ここで10分間の休憩とする。」

(休憩)

ペレーラ委員長「再開する。次は第13期の調査審議についてだ。事務局から説明を

お願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料6に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

ンディアエ委員「コロナの感染拡大という状況の中で、フィールドワークをしたいとなったら可能か。」

事務局高橋専門調査員「まず、グループワークだけではなく、部会の場合でもフィールドワークをしたいという意見が出た場合、まずはフィールドワークを実施するかどうかを正式に決定する。そのうえで、グループや部会のメンバーだけではなく、希望者は誰でも参加できるようにする。ただし、コロナの感染が心配される中で実施できるかどうかというのは別の問題だ。きちんと条件が整わないと無理だと思う。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)では、まずは部会を設置するかどうかについて決めたい。何か意見はあるか。(なし)では、部会の設置に賛成の人は手を挙げてください。(20人)次に、案では次回はグループワークをするとなっているが、何か意見はあるか。(なし)では、次回はグループワークをすることに賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)グループに関しては、国籍・地域、性別、新規と継続のバランスをとりたい。事務局に案をつくってもらって、それを正副委員長が確認して、決定ということでよいか。」

ンディアエ委員「バランスをとるのは難しいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「3つのバランスを完璧にとるのは難しいと思うが、なるべくバランスをとるようにしたい。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、グループわけについて案に賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)次は、グループの数についてだ。何か意見はあるか。(なし)では、4グループに賛成の人は手を挙げてください。(14人)5グループに賛成の人は手を挙げてください。(7人)4グループに決定した。今日、決めなければいけないことはこれですべてだが、今後のことについて何か意見や希望はあるか。」

児玉委員「LINEのグループをつくりたいと思っている。強制ではないので、参加したい人は会議が終わったら私のところまで来て欲しい。」

ドウマヤス委員「次回のグループワークに向けて、何か準備することはあるか。テーマについて勉強したりした方がよいか。」

事務局高橋専門調査員「2つ紹介したい。1つは、前回の会議でもお配りした代表者会議の年次報告書だ。年次報告書には、代表者会議のこれまでの提言とその取組状況が載っている。過去の提言はぜひ参考にして欲しい。もう1つは、昨年、川崎市が外国人市民の方を対象にアンケート調査を行った。その報告書ができあがっているので、関心のある人は読んでみて欲しい。この2つに関しては、あらためてメールでお知らせする。」

グエン委員「グループワークのイメージがまだよくわからないので、前期の経験を少し聞きたい。」

ペレーラ委員長「ぜひお願いしたい。」

前田委員「グループワークでは、まずはみなさんが話し合いたいことやアイデア、提言にしたいことを出して、共有する場だと思う。深く掘り下げた審議は、テーマを絞ってからしていくが、まずは考えていることを共有することが大事だと思う。」

ボソ委員「1つでも2つでも、自分が話し合いたいことをちゃんと準備してくることが大事だと思う。」

ポール委員「前はテーマの中に川崎市にはできないことも多かった。時間は限られているので、川崎市ができることについて話し合った方がよいと思う。」

バテネフ委員「労働問題とか、教育問題のような抽象的な表現ではなくて、具体的に何が課題なのか、本当に課題なのか、ということを考えることが大切だと思う。」

チョ委員「私ももともとは何もわからないところからスタートしたが、年次報告書をよく読んで、自分の考えはどうかということを整理するとよいと思う。」

児玉委員「私も年次報告書を読んでくことは大事だと思う。私たちが知らないけれども、すでにあるものや過去に提言されていることもある。まだ言われていないことを探した方がよいと思う。」

ペレーラ委員長「ほかに何か意見や質問はあるか。」

ユデク委員「話を聞いて、できること、できないことの理解は非常に大事だと思う。ただ、私たちだけでそれが判断できるのか心配だ。結局、話し合っても市ができないことだったら時間の無駄になってしまう。何かできること、できないことがわかる資料はあるか。」

事務局高橋専門調査員「なるべく時間を無駄にしないようにというのはわかる。一方で、今の段階はまだそれぞれの代表者が考えていることをお互いに理解した

り、共有したりすることが大切だと思ふ。せつかく代表者になったのだから、それぞれに話し合いたいことがあると思ふ。できること、できないことは意識して欲しいが、本格的に考えるのはテーマを絞る段階でもよい。できること、できないことのリストのようなものはない。難しいと思われるものでも方法を換えればできるようになるかもしれない。できる、できないの感覚は、継続の人たちはある程度わかると思ふ。グループを組むときに新規と継続のバランスをとるのはそのためだ。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。（なし）では、今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡があればお願いする。（なし）それでは、今日の日程は終了だ。次回の会議は9月13日の日曜日に、ここ、国際交流センターで開催する。これで2020年度第1回第2日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」